

令和2年2月の解説（週間天気予報）

【2月の天候状況】

上旬は、北日本では旬のはじめは寒気の影響を受けにくかったが、旬の中頃からは冬型の気圧配置となって強い寒気が流入したために平均気温は低く、特に北海道地方では9日に旭川市江丹別で -36.0°C を観測するなど、厳しい冷え込みとなりました。一方、東日本、西日本と沖縄・奄美では、寒気の影響を受けにくかったことや、低気圧や前線の影響を受けにくかったために晴れた日が多く、東日本で平均気温が高かったほか、降水量は東日本太平洋側と西日本日本海側でかなり少なく、日照時間も多くなりました。

中旬は、冬型の気圧配置が続かず、日本付近を前線や低気圧が通過することが多かったため、北日本太平洋側では曇りや雨または雪の日が多く、西日本太平洋側では曇りや雨の降る日が多くなりました。16日から18日にかけては、発達する低気圧の影響やその後の一時的な冬型の気圧配置の強まりにより、北・東・西日本日本海側を中心に大荒れや大雨、大雪となった所がありました。暖かい空気に覆われやすかったことや、低気圧に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込んだ時期もあったことから、平均気温は全国的に高く、特に北日本と東日本では平年差がそれぞれ $+3.5^{\circ}\text{C}$ 、 $+3.7^{\circ}\text{C}$ と、2月中旬として1位の高温となりました。

下旬は、全国的に高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わりました。北日本では、冬型の気圧配置となる日が少なく、低気圧の影響も受けにくかったため、日照時間が多くなりました。西日本から沖縄・奄美にかけては、低気圧の影響により西日本日本海側で降水量が多くなったものの、高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。特に沖縄・奄美では降水量がかなり少なく、日照時間はかなり多くなりました。また、全国的に寒気の影響が弱かったことや、南から暖かい空気が流れ込んだ日もあったことから、平均気温は全国的に高くなりました。

【2月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3~7日目平均)は、例年値^(注)よりも2ポイント高い75%でした。地方別の適中率では、北海道、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州北部、九州南部、沖縄の各地方で例年値を上回りました。

最高気温の予報誤差(2~7日目平均)は、全国平均で例年値よりも 0.3°C 小さい 2.1°C で、東海地方を除く各地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差(2~7日目平均)は、全国平均で例年値よりも 0.3°C 小さい 1.8°C で、北海道、東北、関東甲信、北陸、中国、四国、九州北部、九州南部、沖縄の各地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【4月の週間天気予報の利用にあたって】

4月は、短い周期で低気圧が通って、天気が変わることの多い時期です。暖かい日が多くなる一方で、低気圧の通過後に冷たい空気が流れ込んで前日より気温が大きく下がることもあります。寒暖の差が大きい時期ですので、週間天気予報で気温変化を把握し、健康管理や農作物の管理等にお役立てください。